



P-III-②  
 K様の思いに寄り添う支援  
 ～オムツ体験から学んだことを生かして～  
 徳島県

医療法人 凌雲会 グループホーム親の家  
 介護福祉士 上村佳乃子

親の家基本方針

入居者は介護を受ける人ではなく**生活の主役**である。  
 心の動きに共感し**ありのまま**を受け止める。

①【はじめに】

「ご利用者の気持ちになる」を目的に、職員のオムツ体験を行った。身を持って体験したことで今までご利用者の気持ちを十分に理解できていなかった事に気付かされた。

②【事例紹介】

K様 91歳 女性  
 要介護5  
 昨年5月入居され、入居当初は生活全般に介助が必要。さらに発語もほとんどなく、コミュニケーションが図りづらい状



もっといろいろな事が自分でしたいのでは？  
 職員が必要以上の支援をすることで出来る事を奪ってはいないか？

③【具体的な取り組みと活動の成果】

食事

自分でご飯が食べたい！

入居当初	取り組み	現在
全介助	全介助→自助具のスプーンを持って頂き手を添えて介助→自助具のスプーンで自力摂取→声かけしスプーンと箸、両方を使用していた→箸で自力摂取	自力摂取
ミキサー食	毎食ゆっくり時間をかけ摂取して頂いているうちに、次第に嚥下状態の改善が見られたため刻み食を経て徐々に移行した。	普通食
むせが酷い	時間がかかっても、必要以上に介助せず、ご本人のペースで摂取していただく。	殆どむせない



紙パンツなんてはきたくない！

排泄

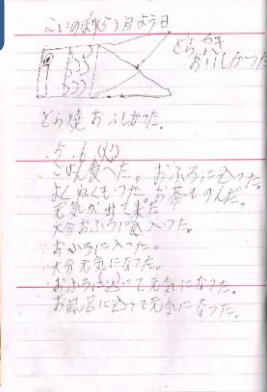
入居当初	取り組み	現在
紙パンツ使用	トイレ誘導の時間は決めずK様の様子を注意深く観察したり水分摂取量等を考えながら、必要に応じて誘導する。	布パンツ使用

行きたい所に自分で行きた

移動

入居当初	取り組み	現在
全介助(車椅子)	全身状態の改善が見られたため、少しなら車椅子を自操出来るのではと思い、自操タイプの車椅子に変更した。始めは細かく操作方法を伝えなければならなかったが、少しずつスムーズに自操出来るようになった。	短い距離であれば移動可能。

日課の日記



5④【考察・まとめ】

オムツ体験、意見交

・ご利用者の思いを理解

職員目線の支援ではなく、ご利用者の立場になることが思いに寄り添う支援につながる

全ての支援

・ご利用者の尊厳を大切に！  
 ・ご利用者主役の親の家！

